

FUJITSU Storage ETERNUS BE50

バックアップアプリケーション

注意事項

はじめに

本書は、弊社FUJITSU Storage ETERNUS BE50 バックアップアプライアンス(以降、「ETERNUS BE50」と表記)について、次の注意事項を記載しています。

-制限事項

-留意事項

本製品の導入および運用に際しましては、本記載内容をよくご確認の上、ご使用いただきますようお願い申し上げます。

第16版

2015年11月

Symantec、Symantec ロゴ、Backup Execは、Symantec Corporation または同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft、Active Directory、Hyper-V、SQL Server、Windows、Windows Server、Exchange Server、およびInternet Explorerは、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

その他一般に、会社名、製品名、サービス名は、各社の商標または登録商標です。

目次

1. 制限事項	12
1.1 設定項目の制限事項	12
1.1.1 ホスト名の変更	12
1.1.2 ドメイン名の変更	12
1.2 集中管理サーバでの制限事項	12
1.2.1 複製したバックアップデータの仮想変換	12
1.3 Deduplication Option の制限事項	13
1.3.1 Granular Recovery Technology (GRT)の利用	13
1.4 リストアにおける制限事項	13
1.4.1 Windows Server 2008(含む R2) のリストア	13
1.4.2 Windows Server 2003(含む R2)/Windows XP のリストア	13
1.5 Windows Sever 2012 サポートにおける制限事項	14
1.5.1 クライアントサーバでの重複排除	14
2. 留意事項	15
2.1 製品全般についての留意事項	15
2.1.1 KVM(USB キーボード、VGA ディスプレイ、USB マウス)	15
2.1.2 ETERNUS BE50 の管理	15
2.1.2.1 ServerView Operations Manager / エージェント	15
2.1.2.2 リモートマネジメントコントローラ	15
2.1.3 USB メモリ	15
2.1.4 リモート通報	16
2.1.5 システム設計	16
2.1.6 Symantec Backup Exec のバージョンアップについて	16
2.2 運用上の留意事項	17
2.2.1 マニュアル	17
2.2.2 ドメイン環境での ETERNUS BE50 の使用について	17
2.2.3 プロキシの設定	17
2.2.4 BIOS 設定	17
2.2.5 ホスト名の変更	18
2.2.5.1 スタンドアロン環境のホスト名変更	18
2.2.5.2 スタンドアロン環境でドメインに参加している場合のホスト名変更	18
2.2.5.3 CASO 環境における集中管理サーバのホスト名変更	18
2.2.5.4 CASO 環境における管理対象サーバのホスト名変更	19
2.2.6 ドメイン名の変更	19
2.2.6.1 スタンドアロン環境でのドメイン名変更	19
2.2.6.2 CASO 環境でのドメイン名変更	19
2.2.7 ETERNUS BE50 自身のバックアップ	19
2.3 Symantec Backup Exec についての留意事項	20

2.3.1	カタログジョブ	20
2.3.2	LiveUpdate	20
2.3.3	複製 (CASO 環境)	21
2.3.4	Simplified Disaster Recovery (SDR) 機能	21
2.3.5	Granular Recovery Technology (GRT)	23
2.3.6	Microsoft Hyper-V 環境の仮想マシンのバックアップ	24
2.3.7	Microsoft Exchange Server	24
2.3.8	Agent for Windows Systems	24
2.3.9	重複排除ストレージ	25
2.3.10	VMware 環境の仮想マシンのバックアップ/リストア	26
2.3.11	仮想変換	26
2.3.12	vCenter Server のシステムバックアップ/リカバリ	27
2.3.13	その他	27
2.4	ServerView についての留意事項	27
2.4.1	ServerView のバージョンについて	27
2.4.2	OpenSSL 'Heartbleed' 脆弱性問題 (CVE-2014-0160) の影響について	28
2.5	LAN/その他のドライバについての留意事項	30
2.6	Java Runtime Environment (JRE) についての留意事項	30
2.6.1	Java 7 Update 51 の適用について	31
2.7	UPS 電源管理ソフトウェアについての留意事項	32
2.8	Windows Server 2012 における留意事項	34
2.9	Windows Server 2012 Hyper-V*1 についての留意事項	35
2.10	Backup Exec 2012 の Service Pack について	36
2.10.1	Backup Exec 2012 の Service Pack 2 の適用について	36
2.10.2	Backup Exec 2012 の Service Pack 3 の適用について	37
2.10.3	Backup Exec 2012 の Service Pack 4 の適用について	37
2.11	OpenSSL における Change Cipher Spec メッセージ処理の脆弱性 (CVE-2014-0224) の影響について	39
2.12	PRIMEQUEST 2000 シリーズにおける留意事項	40
3.	動作環境	41

改版履歴

版数	改版日	変更内容
1.0 版	2012 年 12 月	初版
2.0 版	2013 年 2 月	<p>以下を変更・追加しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ホスト名およびドメイン名変更の制限事項の解除にともない、「1.制限事項」の以下を修正。 「1.1.1 ホスト名変更」 「1.1.2 ドメイン名変更」 ■ ホスト名およびドメイン名変更の制限事項の解除にともない、「2.2 運用上の留意事項」に以下を追加。 「2.2.5 ホスト名の変更」 「2.2.6 ドメイン名の変更」 ■ パフォーマンスが改善する修正プログラムの情報を以下に追加。 「2.3.2 LiveUpdate」 ■ 以下を追加。 「2.6 Java Runtime Environment (JRE) についての留意事項」
3.0 版	2013 年 4 月	<p>以下を変更・追加しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「1.2.1 バックアップデータの仮想変換」の制限解除の時期を 2013 年 6 月から 2013 年 8 月に変更。 ■ 「1.3.1 Granular Recovery Technology (GRT) の利用」の制限解除の時期を 2013 年 6 月から 2013 年 5 月に変更。 ■ 「1.4.1 Windows Server 2008(含む R2) のリストア」の制限解除の時期を 2013 年 6 月から 2013 年 8 月に変更。 ■ 「1.4.2 Windows Server 2003(含む R2)/Windows XP のリストア」の制限解除の時期を 2013 年 3 月下旬から 2013 年 8 月に変更。 ■ 「2.2.2 ドメイン環境での ETERNUS BE50 の使用について」の留意事項に「2.2.2.2 ホスト名の変更」を追加。 ■ PowerChute Business Edition v9.0.1 のサポートに伴い、「2.7 UPS 電源管理ソフトウェアについての留意事項」の章を追加
4.0 版	2013 年 6 月	<p>以下を変更・追加しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「1.3.1 Granular Recovery Technology(GRT) の利用」についての制限事項解除時期を 2013 年 5 月から 2013 年 12 月に変更。 ■ 「1.4.2 Windows Server 2003(含む R2)/Windows XP のリストア」の制限事項の掲載内容を変更。

版数	改版日	変更内容
5.0 版	2013 年 7 月	<p>以下を変更しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「2.4 ServerView についての留意事項」にアップデートについての記載内容を変更。 ■ 「2.6 Java Runtime Environment (JRE) についての留意事項」に JRE のバージョンアップについての記載内容を変更。
6.0 版	2013 年 9 月	<p>Backup Exec 2012 の SP2 適用によるリモートコンピュータ(バックアップ対象)の新プラットフォームサポートに伴い以下を追加・修正しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Windows Sever 2012 サポートにおける制限事項として「1.5.1 クライアントサーバでの重複排除」を追加。 ■ 「2.3 Symantec Backup Exec についての留意事項」の「2.3.2 LiveUpdate」のパフォーマンスが改善する修正プログラムについての記載内容に、Backup Exec 2012 の SP2 の情報を追加。 また Backup Exec 2012 の SP1 の適用を促すメッセージの通知についての記載を削除。 ■ 「2.8 Windows Server 2012 における留意事項」を追加。 ■ 「2.9 Windows Server 2012 Hyper-V*¹ についての留意事項」を追加。 ■ 「3.動作環境」を追加。 <p>上記以外に以下を追加・修正しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ETERNUS BE50 のサポート対象外の機能であるため、「第 1 章 制限事項」の「1.2.1 バックアップデータの仮想変換」を削除。 ■ 「第 1 章 制限事項」の「1.2.1 複製したバックアップデータの仮想変換」に制限解除を追加。解除時期は 2013 年 12 月の予定。 ■ 「1.3.1 Granular Recovery Technology (GRT) の利用」の制限を解除。 ■ 「1.4.1 Windows Server 2008(含む R2) のリストア」の制限を解除。 ■ 「1.4.2 Windows Server 2003(含む R2)/Windows XP のリストアの制限」を解除。 ■ 「2.3 Symantec Backup Exec についての留意事項」に以下を追加。 「2.3.4 Simplified Disaster Recovery(SDR)機能」 「2.3.5 Granular Recovery Technology (GRT) の留意事項」 「2.3.6 Microsoft Hyper-V 環境の仮想マシンのバックアップについての留意事項」

7.0 版	2013 年 12 月	<p>以下を変更・追加しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「1.2.1 複製したバックアップデータの仮想変換」の制限解除時期を「2013 年 12 月」から「2014 年 6 月」に変更。 ■ 「1.5 Windows Sever 2012 サポートにおける制限事項」の「1.5.1 クライアントサーバでの重複排除」の制限解除時期を「2013 年 12 月」から「2014 年 2 月」に変更 ■ 「2.3 Symantec Backup Exec についての留意事項」に以下を追加 <ul style="list-style-type: none"> ・「2.3.4 Simplified Disaster Recovery (SDR) 機能」に名前解決について、およびシステム起動における留意事項 ・「2.3.5 Granular Recovery Technology (GRT)」に仮想マシンの OS が Windows Server 2012 の場合、仮想 OS 上の Exchange Server 2013 についての留意事項、およびサポート対象外事項 ・「2.3.7 Microsoft Exchange Server」についての留意事項 ・「2.3.8 Agent for Windows Systems」についての留意事項 ・「2.3.9 重複排除ストレージ」についての留意事項 ■ 「2.6 Java Runtime Environment (JRE) についての留意事項」に Java 7 Update 10 (7u10) 以降のバージョンおよび Java 7 U25(7u25) 以降のバージョンにおける留意事項を追加。 ■ 「2.8 Windows Server 2012 における留意事項」に ReFS ボリュームや Windows の重複排除を有効にしたボリュームにおける留意事項を追加 ■ 「2.9 Windows Server 2012 Hyper-V*1 についての留意事項」にサポート対象外事項を追加 ■ 「2 章留意事項」に「2.10 Backup Exec 2012 の Service Pack について」、「2.10.1 Backup Exec 2012 の Service Pack 2 の適用について」および「2.10.2 Backup Exec 2012 の Service Pack 3 の適用について」を追加。また各章の Service Pack についての記載箇所を上記記載情報を追加
8.0 版	2014 年 1 月	<p>以下を追加・修正しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Java 7 Update 51 の適用についての注意喚起のため、「2.6 Java Runtime Environment (JRE) についての留意事項」に「2.6.1 Java 7 Update 51 の適用について」を追加 ■ 「2.10.2 Backup Exec 2012 の Service Pack 3 の適用について」の Service Pack 3 の適用に失敗しないための対処方法を修正
9.0 版	2014 年 1 月	<p>以下を追加・修正しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「2.3.3 複製」に以下を追加 <ul style="list-style-type: none"> ・CASO 環境の説明 ・管理対象サーバと通信可能となるための集中管理サーバにおける留意事項

		<ul style="list-style-type: none"> ■ 「2.3.4 Simplified Disaster Recovery (SDR)機能」に以下を追加 <ul style="list-style-type: none"> ・SDR ディスクで起動時に通常の OS 起動時とディスクの認識順序が異なる場合におけるリカバリの留意事項 ・システムボリュームがダイナミックディスクで構成されている場合におけるディザスタリカバリを目的としたバックアップについての留意事項 ・ドライブ文字 X を使用するボリュームの SDR でのリストア不可 ・SDR によるリカバリ操作中に「ディスクの詳細設定」画面を開く際に、リカバリ完了後のディスクのボリュームラベルが空白になる事象についての対処方法 ■ 「2.3.5 Granular Recovery Technology (GRT)」に、GRT 用のバックアップデータ使用に関する留意事項を追加 ■ 「2.3.8 Agent for Windows Systems」に以下を追加 <ul style="list-style-type: none"> ・ドライブ文字が割り当てられないローカルボリュームのバックアップ不可 ・Backup Exec 2012 Agent for Windows Systems と他のバックアップソフトがインストールされた環境はサポート対象外 ・Backup Exec 2012 Agent for Windows Systems と Symantec System Recovery が混在している場合の運用設計の留意事項 ・Backup Exec 2012 Agent for Windows Systems と Symantec System Recovery を同居させている環境をバックアップする際の失敗発生条件および失敗しないための回避方法 ・Windows 7 に Backup Exec 2012 Agent for Windows Systems をプッシュインストールする場合の留意事項を追加 ・Windows Vista のシステム状態をリストアした際に作成される場合がある一時ディレクトリの対処方法を追加 ・Backup Exec 2012 Agent for Windows のアンインストール時に表示されるメッセージについての留意事項 ■ 「2.3.10 その他」にドライブ文字が割り当てられていないローカルボリュームのバックアップにおける留意事項を追加 ■ 「2.6.1 Java 7 Update 51 の適用について」を、Java 7 Update 51 の影響を受けないための回避策に記載内容を変更。 ■ 「2.7 UPS 電源管理ソフトウェアについての留意事項」の動作確認済み UPS 電源管理ソフトウェアに PowerChute Business Edition v9.1.1 を追加 ■ 「2.8 Windows Server 2012 における留意事項」に、Hyper-V ホスト OS が Windows Server 2008 の場合に、Hyper-V ホスト OS である Windows Server 2008 に Backup Exec 2012 Agent for Windows Systems の SP2 をインストールした際に仮想マシンのバックアップに失敗する現象に関して、最新の Service Pack (以下 SP)を適用することによる事象の回避方法を追加
--	--	--

		<ul style="list-style-type: none"> ■ 「2.9 Windows Server 2012 Hyper-V*1 についての留意事項」の以下を変更 <ul style="list-style-type: none"> ・Windows Server 2003 のサーバを Windows Server 2012 Hyper-V ホストに仮想変換後における仮想変換した仮想マシンのコンソール画面の操作についての留意事項を修正 ・Windows Server 2003 のサーバを Windows Server 2012 Hyper-V ホストに仮想変換後における仮想 OS 起動時の留意事項を追加
10 版	2014 年 4 月	<p>以下を追加・修正しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「1. 制限事項」の「1.4.2 Windows Server 2003(含む R2)/Windows XP のリストア」に以下を追加。 <ul style="list-style-type: none"> ・SDR でのリカバリは未サポートです。 ■ 「1. 制限事項」の「1.5.1 クライアントサーバでの重複排除」の制限を解除および留意事項を追加 ■ ユーザーズガイドとユーザーズガイド追記・訂正版の統合に伴い以下を変更 <ul style="list-style-type: none"> ・「2. 留意事項」の「2.2.5 ホスト名の変更」および「2.2.6 ドメイン名の変更」についての記載から参照されるユーザーズガイドの章番号を変更 ■ 「2. 留意事項」の「2.3.3 複製(CASO 環境)」に以下を追加 <ul style="list-style-type: none"> ・集中管理サーバではバックアップできません。 ・CASO 環境の場合、リストアはデータを保持するサーバからリストアする必要があります。(集中管理サーバにあるデータを指定した管理サーバからのリストアは不可です。逆も同じです) ■ 「2. 留意事項」の「2.10.2 Backup Exec 2012 の Service Pack 3 の適用について」の以下を変更 <ul style="list-style-type: none"> ・バックアップ対象の VMware ESXi 5.5 サポート開始予定時期を「2014 年 2 月」から「2014 年 6 月」に変更 ■ 「2.2 運用上の留意事項」に「2.2.7 ETERNUS BE50 自身のバックアップ」と以下を追加 <ul style="list-style-type: none"> ・ETERNUS BE50 自身のバックアップはサポートしていません。 ■ 「3. 動作環境」に以下を追加 <ul style="list-style-type: none"> ・Red Hat® Enterprise Linux® 5.0、6.0 のサポート開始および留意事項の追加 ・Windows® 8.1, Windows® 8, Windows® Internet Explorer® 11 および Windows® Internet Explorer® 10 のサポート開始および留意事項
11 版	2014 年 5 月	<p>OpenSSL 'Heartbleed' 脆弱性問題による ETERNUS BE50 への影響について以下を追加しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「2.4 ServerView についての留意事項」の既存記事に「2.4.1

		<p>ServerView のバージョンについて」のタイトルを追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「2.4 ServerView についての留意事項」に「2.4.2 OpenSSL 'Heartbleed' 脆弱性問題の影響について」を追加 <p>Backup Exec 2012 の SP4 の提供開始に伴い、以下を修正・追加しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「2.10 Backup Exec 2012 の Service Pack について」に SP4 の情報を追加 ■ 「2.10.2 Backup Exec 2012 の Service Pack 3 の適用について」を SP3 が最新の SP に包含される旨を追加し、SP3 の適用に失敗した場合の回避策を削除 ■ 「2.10.3 Backup Exec 2012 の Service Pack 4 の適用について」を追加
12 版	2014 年 5 月	<p>OpenSSL 'Heartbleed' 脆弱性の対策版の公開に伴い、以下を追加・修正しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「2.4.1 ServerView のバージョンについて」に ServerView RAID Manager の OpenSSL の脆弱性対応版についての情報を追加 ■ 「2.4.2 OpenSSL 'Heartbleed' 脆弱性問題の影響について」に以下を追加 <ul style="list-style-type: none"> ・OpenSSL の脆弱性対応版についての情報 ・回避策実施後にアップデートインストールした場合の手順 <p>上記以外に以下を追加しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「2.6.1 Java 7 Update 51 の適用について」に ServerView RAID Manager の Java 7 Update51 対応版についての情報を追加
13 版	2014 年 6 月	<p>以下を追加・修正しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「1. 制限事項」の「1.2.1 複製したバックアップデータの仮想変換」の制限を解除および留意事項を追加 ■ 「2. 留意事項」に以下を追加 <ul style="list-style-type: none"> ・「2.3.10 VMware 環境の仮想マシンのバックアップ/リストア」 ・「2.3.11 仮想変換」 ■ 「2. 留意事項」の以下を修正 <ul style="list-style-type: none"> ・「2.3.10 その他」を「2.3.12 その他」に修正 ■ 「2. 留意事項」の「2.3.3 複製(CASO 環境)」に以下を追加 <ul style="list-style-type: none"> ・Backup Exec の管理コンソールの[重複排除用ストレージ]の左ペインで発生するエラーについての留意事項 ■ 「2.10.2 Backup Exec 2012 の Service Pack 3 の適用について」の以下を削除 <ul style="list-style-type: none"> ・バックアップ対象のリモートコンピュータとしてのVMware ESXi 5.5は未サポート ■ 「2.10.3 Backup Exec 2012 の Service Pack 4 の適用について」に以下を追加・修正

		<ul style="list-style-type: none"> ・バックアップ対象のリモートコンピュータとしてのVMware ESXi 5.5のサポート開始 ・CASO環境の場合のSP4適用手順を修正 ■ 「第3章 動作環境」に以下を追加 ・VMware ESXi5.5等のサポートを開始
14 版	2014 年 7 月	<p>以下を追加・修正しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「2. 留意事項」に「2.11 OpenSSL における Change Cipher Spec メッセージ処理の脆弱性 (CVE-2014-0224)の影響について」を追加 ■ 「2. 留意事項」に「2.12 PRIMEQUEST 2000 シリーズにおける留意事項」を追加 ■ Windows Server Hyper-V の表記を以下に変更 ・Windows Server 2008 Hyper-V (Microsoft Hyper-V 1.0 から変更) ・Windows Server 2008 R2 Hyper-V (Microsoft Hyper-V 2.0 から変更) ・Windows Server 2012 Hyper-V (Microsoft Hyper-V 3.0 から変更)
15 版	2015 年 6 月	<p>以下を追加・修正しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「2. 留意事項」の「2.1.2.1 ServerView Operations Manager / エージェント」に ServerView の画面表示上の留意事項を追加 ■ 「2.1.4 リモート通報」の“保守・運用支援サービス「SupportDesk」”を“運用・保守サービス「SupportDesk」”に修正 ■ 「2. 留意事項」の「2.1.6 Symantec Backup Exec のバージョンアップについて」を追加 ■ 「2. 留意事項」の「2.3.12 vCenter Server のシステムバックアップ/リカバリ」を追加 ■ 「2. 留意事項」の「2.3.12 その他」を「2.3.13 その他」に修正
16 版	2015 年 11 月	<p>以下を追加・修正しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 目次 ■ 「2. 留意事項」の「2.1.6 Symantec Backup Exec のバージョンアップについて」に Symantec Backup Exec 15バージョンアップの提供開始日を追加 ■ 2.2.2.1 サービスアカウントの変更項目を削除 ■ 「2.7 UPS 電源管理ソフトウェア」 (5)項「UPS と PowerChute Business Edition を使用することで、ETERNUS BE50 のシステムを保護することができます。」を削除

ETERNUS BE50 注意事項

1. 制限事項

1.1 設定項目の制限事項

1.1.1 ホスト名の変更

- 一度設定した「ホスト名」は変更できない制限がありましたが、この制限事項は 2013 年 2 月に解除になりました。

制限解除前には、検証やテスト運用でご使用になる場合も、本運用で使用するホスト名を設定する必要があります。ホスト名の設定は BE50 設定ツールの「ドメイン設定」画面で行います。

手順については、本書の[2.2.5 ホスト名の変更](#)をご参照ください。

1.1.2 ドメイン名の変更

- 一度設定した「ドメイン名」は変更できない制限がありましたが、この制限事項は 2013 年 2 月に解除になりました。

制限解除前には、検証やテスト運用でご使用になる場合も、本運用で使用するドメイン名を設定する必要があります。ドメイン名の設定は BE50 設定ツールの「ドメイン設定」画面で行います。

手順については、本書の[2.2.6 ドメイン名の変更](#)をご参照ください。

1.2 集中管理サーバでの制限事項

1.2.1 複製したバックアップデータの仮想変換

- 管理対象サーバ側でシステムバックアップしたデータを集中管理サーバに複製した場合、集中管理サーバ上にある複製したデータからは仮想変換ができません。

この制限事項は 2014 年 6 月に解除となりました。

仮想変換については留意事項がありますので、本書の[2.3.11 仮想変換](#)をご確認ください。

1.3 Deduplication Option の制限事項

1.3.1 Granular Recovery Technology (GRT) の利用

・GRTを有効にしてVMware 仮想マシンを重複排除フォルダにバックアップはできません。実施した場合、バックアップ中に PDVFSService.exe サービスが異常終了することがあります。

この制限事項は、Backup Exec 2012 の Service Pack 2 の適用により2013年9月に解除となりました。SP2の適用については、本書の「[2.10.1 Backup Exec 2012 の Service Pack 2 の適用について](#)」をご確認ください。

GRT 有効で VMware 仮想マシンを重複排除フォルダにバックアップする場合には、留意事項がありますので、本書の「[2.3.5 Granular Recovery Technology \(GRT\) の留意事項](#)」をご確認ください。

1.4 リストアにおける制限事項

1.4.1 Windows Server 2008(含むR2)のリストア

・バックアップ対象の OS が Windows Server 2008(含む R2)の場合、差分バックアップまたは増分バックアップの手動ディザスタリカバリはできません。実施すると、Backup Exec のリストアジョブが「0xe000030e」のエラーで失敗します。
ディザスタリカバリをする場合は、Simplified Disaster Recovery (SDR)を使用してシステムを復旧してください。

この制限事項は、Backup Exec 2012 の Service Pack 2 (以下、SP2)の適用により2013年9月に解除となりました。SP2の適用については、本書の「[2.10.1 Backup Exec 2012 の Service Pack 2 の適用について](#)」をご確認ください。

1.4.2 Windows Server 2003(含むR2)/Windows XPのリストア

・リモートコンピュータ(バックアップ対象)の OS が Windows 2003(含む R2)または Windows XP の場合、システムバックアップのデータは、手動リカバリのみ実施できます。ただし、手動リカバリの場合でも、増分バックアップおよび、差分バックアップによるシステムバックアップのデータをリカバリすることができません。そのため、完全バックアップのみの運用としてください。

手動リカバリについての制限事項は、Backup Exec 2012 の Service Pack 2 (以下、SP2)以降の適用により2013年9月に解除となりました。(SDRでのリカバリは未サポートです。) SP2の適用については、本書の「[2.10.1 Backup Exec 2012 の Service Pack 2 の適用について](#)」をご確認ください。

1.5 Windows Server 2012 サポートにおける制限事項

1.5.1 クライアントサーバでの重複排除

・リモートコンピュータ(バックアップ対象)の OS が Windows Server 2012^{*1} の場合、リモートコンピュータでの重複排除処理ができません。そのため、重複排除処理は、ETERNUS BE50 で実施してください。この制限事項は2014年4月に解除となりました。リモートコンピュータ(クライアントサーバ)で重複排除処理を行う場合は、以下の手順を参考にしてください。

「ETERNUS 重複排除技術搭載ストレージ関連マニュアル」

<http://storage-system.fujitsu.com/jp/catalog/manual/dedupe/index.html>

『ETERNUS BE50 ユーザーズガイド 運用編』最新版

マニュアルコード: P3AM-6992-XXZ0 (XX は版数を表しています。)

「3.1.1.1 リモートコンピュータ(Windows)のバックアップ」

*1: Backup Exec 2012 の SP2 以降 の適用が必要です。SP2 の適用については、本書の「[2.10.1 Backup Exec 2012 の Service Pack 2 の適用について](#)」をご確認ください。

2. 留意事項

2.1 製品全般についての留意事項

2.1.1 KVM(USBキーボード、VGAディスプレイ、USBマウス)

・ETERNUS BE50 では BIOS/ファームウェア/ドライバのアップデートや、トラブル発生時の調査を、KVM 装置を接続して行います。KVM 装置は本装置に添付されていないため、別途お客様がご用意ください。

KVM 装置は ETERNUS BE50 に直接接続する形態と KVM スイッチを経由して接続する形態があります。接続可能な KVM 装置は PRIMERGY TX140 S1 のシステム構成図をご確認ください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/system/>

2.1.2 ETERNUS BE50の管理

・ETERNUS BE50 の管理は、「ServerView Operations Manager / エージェント」または「リモートマネジメントコントローラ」をご使用ください。

2.1.2.1 ServerView Operations Manager / エージェント

・ServerView Operations Manager と ServerView エージェントを使用して ETERNUS BE50 を管理する場合には、別途 ServerView Operations Manager をインストールするサーバを用意してください。(ETERNUS BE50 には、ServerView エージェントをインストール済です。

ETERNUS BE50 には ServerView Operations Manager をインストールできません。)

・ServerView の画面の装置名(「モデル」および「タイプ」)はベースの装置"PRIMERGY TX140 S1p"が表示されます。OS 名(「システム」)は"Windows Server 2008 R2 Standard Edition(x64)"が表示されます。

2.1.2.2 リモートマネジメントコントローラ

・ETERNUS BE50 はリモートマネジメントコントローラを標準搭載しています。ただし、リモートマネジメントコントローラのオプション製品である「リモートマネジメントコントローラアップグレード」は適用できないため、コンソールリダイレクション機能/リモートストレージ機能は使用できません。

2.1.3 USBメモリ

・ETERNUS BE50 保守作業時に、USB メモリが必要になる場合があります。(ETERNUS BE50 の保守資料採取、BIOS ファームウェアのアップデートに失敗した際のリカバリアップデート) 使用できる USB メモリは、富士通ワークコより推奨品を販売しています。

<http://jp.fujitsu.com/group/coworco/services/supply/media/usb/>

2.1.4 リモート通報

- ・ハードウェア障害時の障害予兆／異常情報のリモート通報のサービスをご利用いただく場合には、別途 ServerView Operations Manager をインストールするサーバを用意してください。
(ETERNUS BE50 には、ServerView エージェントをインストール済です。
ETERNUS BE50 には ServerView Operations Manager をインストールできません。)
また運用・保守サービス「SupportDesk」の契約が別途必要となります。
- ・リモート通報の詳細については「SupportDesk リモート通報設定の手引き (PRIMERGY ServerView 版)」を参照ください。

2.1.5 システム設計

- ・ETERNUS BE50 のシステム設計は、ネットワーク環境やバックアップ容量を考慮して行ってください。
(クライアント追加に伴うライセンス費用は必要ありません。)

2.1.6 Symantec Backup Exec のバージョンアップについて

- ・運用・保守サービス「SupportDesk」のご契約いただいているお客様より申請があった場合、ETERNUS BE50 の構成品のうち「Symantec Backup Exec」のみをバージョンアップ可能とします。
バージョンアップ版の提供については、製品購入時より SupportDesk 契約を締結し、現在もご契約していただいているお客様のみが対象となります。
また、最新版の「Symantec Backup Exec」が ETERNUS BE50 の OS である「Microsoft® Windows Storage Server® 2008 R2」をサポート OS としている場合に限りです。

最新 OS のバックアップに対応するためにも、Symantec Backup Exec のバージョンアップをお勧めします。

バージョンアップ版の提供については、以下を予定しています。

Symantec Backup Exec 2014: 2015 年 6 月 15 日より提供開始

Symantec Backup Exec 15: 2015 年 ~~9~~7 月 18 日中旬より提供開始

※バージョンアップ版の提供については特に事情がない限り、最新版の提供となります。

バージョンアップについての詳細はお客様専用ホームページ「SupportDesk-Web」の「ETERNUS BE50」のページをご確認ください。

お客様専用ホームページ「SupportDesk-Web」

<http://eservice.fujitsu.com/supportdesk/>

2.2 運用上の留意事項

2.2.1 マニュアル

- ・ETERNUS BE50 のマニュアルは変更される場合があります。ご使用前にはマニュアルの最新版および訂正・追記事項を以下の URL から入手し、必ずご確認ください。

「ETERNUS 重複排除技術搭載ストレージ関連マニュアル」

<http://storage-system.fujitsu.com/jp/catalog/manual/dedupe/index.html>

2.2.2 ドメイン環境でのETERNUS BE50の使用について

- ・Backup Exec の最終セットアップ前にホスト名の変更とドメイン参加の両方を実施する場合、必ずホスト名の変更を先に実施してください。ドメイン参加を先に実施した場合、Backup Exec の最終セットアップに失敗します。

2.2.3 プロキシの設定

- ・Backup Exec のインターネット監視動作のタイミングにより、BE50 設定ツールで設定したプロキシ情報が無効になる場合があります。この場合、以下の回避手順によりプロキシ情報を再設定してください。

1. Windows に ETERNUS BE50 の管理者ユーザでログオンします。

(ドメイン参加時はドメインのユーザでログオンします。)

2. IE(※)を使用してプロキシ情報を設定します。

3. Windows からログオフします(再起動は不要です)。

※: Windows(R) Internet Explorer(R)の「ツール」→「インターネットオプション」

→「接続」タブ →「LAN の設定」→「プロキシサーバー」の画面です。

2.2.4 BIOS設定

- ・マニュアルや富士通で指示した場合を除き、ETERNUS BE50 に対して BIOS の設定の変更を行わないでください。

2.2.5 ホスト名の変更

2.2.5.1 スタンドアロン環境のホスト名変更

・CASO 機能を使用してバックアップデータの複製を行わずに、1 台の ETERNUS BE50 でバックアップを行う運用形態におけるホスト名変更の手順は、以下のドキュメントを参照してください。

「ETERNUS 重複排除技術搭載ストレージ関連マニュアル」

<http://storage-system.fujitsu.com/jp/catalog/manual/dedupe/index.html>

『ETERNUS BE50 ユーザーズガイド 運用編』最新版

マニュアルコード:P3AM-6992- XXZ0 (XX は版数を表しています。)

「4.1.7 スタンドアロン環境の ETERNUS BE50 ホスト名変更手順」

2.2.5.2 スタンドアロン環境でドメインに参加している場合のホスト名変更

・CASO 機能を使用してバックアップデータの複製を行わずに、ドメインに参加している 1 台の ETERNUS BE50 でバックアップを行う運用形態におけるホスト名変更の手順は、以下のドキュメントを参照してください。

「ETERNUS 重複排除技術搭載ストレージ関連マニュアル」

<http://storage-system.fujitsu.com/jp/catalog/manual/dedupe/index.html>

『ETERNUS BE50 ユーザーズガイド 運用編』最新版

マニュアルコード:P3AM-6992- XXZ0 (XX は版数を表しています。)

「4.1.8 スタンドアロン環境で、ドメインに参加している ETERNUS BE50 ホスト名変更手順」

2.2.5.3 CASO環境における集中管理サーバのホスト名変更

・ETERNUS BE50 を 2 台使用し、CASO 機能を使用してバックアップデータの複製を行う運用形態における集中管理サーバのホスト名変更の手順は、以下のドキュメントを参照してください。

「ETERNUS 重複排除技術搭載ストレージ関連マニュアル」

<http://storage-system.fujitsu.com/jp/catalog/manual/dedupe/index.html>

『ETERNUS BE50 ユーザーズガイド 運用編』最新版

マニュアルコード:P3AM-6992- XXZ0 (XX は版数を表しています。)

「4.1.9 集中管理サーバのホスト名変更」

2.2.5.4 CASO環境における管理対象サーバのホスト名変更

・ETERNUS BE50 を 2 台使用し、CASO 機能を使用してバックアップデータの複製を行う運用形態における管理対象サーバのホスト名変更の手順は、以下のドキュメントを参照してください。

「ETERNUS 重複排除技術搭載ストレージ関連マニュアル」

<http://storage-system.fujitsu.com/jp/catalog/manual/dedupe/index.html>

『ETERNUS BE50 ユーザーズガイド 運用編』最新版

マニュアルコード: P3AM-6992- XXZ0 (XX は版数を表しています。)

「4.1.10 管理対象サーバのホスト名変更」

2.2.6 ドメイン名の変更

2.2.6.1 スタンドアロン環境でのドメイン名変更

・CASO 機能を使用してバックアップデータの複製を行わずに、1 台の ETERNUS BE50 でバックアップを行う運用形態でのドメイン名変更の手順は、以下のドキュメントを参照してください。

「ETERNUS 重複排除技術搭載ストレージ関連マニュアル」

<http://storage-system.fujitsu.com/jp/catalog/manual/dedupe/index.html>

『ETERNUS BE50 ユーザーズガイド 運用編』最新版

マニュアルコード: P3AM-6992- XXZ0 (XX は版数を表しています。)

「4.1.6 スタンドアロン環境の ETERNUS BE50 ドメイン名変更手順」

2.2.6.2 CASO環境でのドメイン名変更

・ETERNUS BE50 を 2 台使用し同一のドメイン下で、CASO 機能を使用してバックアップデータの複製を行う運用形態でのドメイン名変更の手順は、以下のドキュメントを参照してください。

「ETERNUS 重複排除技術搭載ストレージ関連マニュアル」

<http://storage-system.fujitsu.com/jp/catalog/manual/dedupe/index.html>

『ETERNUS BE50 ユーザーズガイド 運用編』最新版

マニュアルコード: P3AM-6992- XXZ0 (XX は版数を表しています。)

「4.1.11 CASO 環境のドメイン変更手順」

2.2.7 ETERNUS BE50 自身のバックアップ

・ETERNUS BE50 自身のバックアップはサポートしていません。

2.3 Symantec Backup Exec についての留意事項

2.3.1 カタログジョブ

- ・カタログジョブ実行時、ジョブログに次のようなメッセージが記録されることがあります。
「V-79-40960-3586 - 警告: メディアラベル「OST00000010-4B105536350C3D2A」のメディアではバックアップセットが見つかりませんでした。」
本メッセージは、お客様にメディア内のバックアップデータの有無を通知するものです。ジョブが「完了状態: 成功 (例外処理あり)」で終了している場合は問題ありません。

2.3.2 LiveUpdate

- ・ETERNUS BE50 にインストールされている Symantec Backup Exec 2012 は、LiveUpdate の Web サービスで自動配布される最新のパッチを適用してください。
2013 年 2 月末に Symantec Backup Exec 2012 のパフォーマンスが改善する修正プログラムが、Web サービスで自動配布されています。
以下の修正プログラムが、適用済みかをご確認ください。

Symantec Backup Exec (Hotfix 201596)

上記の修正プログラムと合わせて、下記の修正プログラムも適用済みかをご確認ください。

Symantec Backup Exec (Hotfix 180964)

Symantec Backup Exec (Hotfix 189571)

Symantec Backup Exec (Hotfix 194470)

Symantec Backup Exec (Hotfix 199866)

Symantec Backup Exec (Hotfix 200433)

なお、Backup Exec 2012 の最新の SP を適用した場合、これらの修正プログラムを適用する必要はありません。最新の SP については本書の「[2.10 Backup Exec 2012 の Service Pack について](#)」をご確認ください。

2.3.3 複製(CASO環境)

- ・本書では Central Admin Server Option 機能をインストールした集中管理サーバ(ETERNUS BE50)が、管理対象サーバ(ETERNUS BE50)のバックアップデータを複製できる環境のことを CASO 環境と記載する場合があります。
- ・バックアップデータの複製は、管理対象サーバから、集中管理サーバへの一方向のみしかできません。(集中管理サーバから管理対象サーバへの複製はできません。)
- ・バックアップデータを複製する場合は、ETERNUS BE50 は 1 対 1 構成のみをサポートし、n 対 1 および 1 対 n は構成できません。
- ・集中管理サーバではバックアップできません。
- ・バックアップと複製を別々のジョブで実施した場合、集中管理サーバのストレージから Simplified Disaster Recovery (SDR) および、手動ディザスタリカバリを実施することができません。
集中管理サーバのストレージから、SDR および手動ディザスタリカバリを想定してバックアップを実施する場合は、バックアップジョブ作成時に複製ジョブも含めて作成してください。
- ・集中管理サーバとの通信が取れない場合、管理対象サーバで Backup Exec を動作させることができません。そのため、管理対象サーバと通信可能となるように、常に集中管理サーバの電源がオンである状態にする必要があります。
- ・CASO 環境の場合、リストアはデータを保持するサーバからリストアする必要があります。(集中管理サーバにあるデータを指定した管理サーバからのリストアは不可です。逆も同じです)
- ・Backup Exec の管理コンソールを起動し、[ストレージ]タブから[重複排除用ストレージ]を展開して左ペインの[バックアップセット]を選択すると「照会に失敗しました」というエラーが発生します。[バックアップとリストア]タブからサーバを展開して、左ペインの[バックアップセット]を選択する方法では参照可能となります。

2.3.4 Simplified Disaster Recovery (SDR) 機能

- ・Windows Server 2012/2003(含む R2) および Windows XP 環境のシステムバックアップから、SDR を使用したディザスタリカバリはサポート対象外です。
- ・以下の条件の場合、SDR を使用したディザスタリカバリ操作時にバックアップ先を認識できないため、SDR を使用したディザスタリカバリはサポート対象外です。
 - 1) ネットワークの構成がタグ VLAN 環境である。

・リモートコンピュータを SDR でリカバリする際、ウィザード内で指定する[Backup Exec サーバー]にはコンピュータ名を使用します。

コンピュータ名の名前解決ができない場合は、リモートコンピュータの hosts(※)ファイルに ETERNUS BE50 のコンピュータ名と IP アドレスを定義しておく必要があります。

※X:¥Windows¥System32¥drivers¥etc¥hosts

・SDR でリカバリしたシステム起動時に、以下のメッセージが表示され、システム起動に失敗する場合があります。

[エラーメッセージ]

インストールを完了できませんでした。このコンピュータに Windows をインストールするには、インストールを再実行してください。

対処としては、SDR のメディアで起動後、コマンドプロンプトから regedit を起動し、以下のレジストリキーの "RunSetup" を 0(ゼロ)に変更してからリカバリを実施してください。

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Symantec¥Backup Exec For Windows¥Backup Exec¥Engine¥IDR

本事象は、シマンテック社の以下の技術情報に該当します。

<http://www.symantec.com/docs/TECH180797>

・SDR ディスクで起動すると、通常の OS 起動時とディスクの認識順序が異なる場合があります。

この場合、自動で OS 起動時と同じディスクへのリカバリができません。

そのため、SDR ディスク起動時には必ず、「ディスクの詳細設定」が選択できるウィザードの画面でリカバリする領域を確認してからリカバリを実施してください。

・システムボリュームがダイナミックディスクで構成されている場合、SDR によるリカバリではダイナミックディスクへ直接リカバリすることができません。そのため、ベーシックディスクへリカバリ後、ダイナミックディスクに手動で変更する必要があります。リカバリする際には、下記の要件があります。

・「バックアップ時のダイナミックディスク容量」と、「リカバリ時のベーシックディスク容量」が同じであること

なお、上記要件が満たせない場合は、ディザスタリカバリを目的としたバックアップはできません。

・SDR によるリストアは、ドライブ文字 X を使用するボリュームをリストアできません。

・SDR によるリカバリ操作中に「ディスクの詳細設定」画面を開くと、リカバリ完了後のディスクのボリュームラベルが空白になります。

本事象は、シマンテック社の以下の技術情報に該当します。

<http://www.symantec.com/docs/TECH200514>

必要に応じて、ディザスタリカバリ後に手動でボリュームラベルを設定してください。

2.3.5 Granular Recovery Technology (GRT)

- ・GRT 有効で VMware 仮想マシンを重複排除フォルダにバックアップする場合、バックアップ対象のディスク構成に GPT ディスクが含まれているとバックアップできません。そのため、バックアップジョブから GRT を外すか、バックアップ対象に GPT ディスクを含まないディスク構成に変更してください。
- ・GRT を有効にしてバックアップを行う場合、幾つかの条件が重なると重複排除用ストレージフォルダが削除されバックアップデータを損失する場合があります。
Backup Exec 2012 の SP2 以降の適用により、この現象を回避することが可能です。
SP2 の適用については、本書の「[2.10.1 Backup Exec 2012 の Service Pack 2 の適用について](#)」をご確認ください。

本事象は、シマンテック社の以下の技術情報に該当します。

<http://www.symantec.com/docs/TECH200284>

- ・仮想マシンの OS が Windows Server 2012 の場合、GRT 機能はサポート対象外です。
- ・仮想 OS 上の Exchange Server 2013 に対する GRT 機能はサポート対象外です。
- ・GRT を有効にした Exchange Server 2013 のバックアップから、個別のメールボックス項目のリストアはサポート対象外です
- ・GRT を有効にした、Resilient File System (ReFS) が存在する仮想マシンのバックアップはサポート対象外です。
- ・GRT 用のバックアップデータは、Simplified Disaster Recovery のデータとして使用できません。
Symantec Backup Exec 2012 Agent for Windows Systems 経由でバックアップしたデータを使用するようにしてください。
ただし、GRT 用のバックアップデータを使用して、VADP としてリストア(*. vmdk としてリストア)することは可能です。

2.3.6 Microsoft Hyper-V 環境の仮想マシンのバックアップ

- ・バックアップジョブ作成時に以下の手順にてバックアップ対象を選択した場合、Hyper-V 環境の仮想マシンのバックアップが取得できない場合があります
 - 1) Hyper-V 上の仮想マシンのバックアップジョブを作成する。かつ、
 - 2) バックアップジョブの選択リストの操作を実施する。かつ、
 - 3) [Microsoft Hyper-V]を赤×状態(除外)に設定する。かつ、
 - 4) [仮想マシン]に青レ状態に設定する。かつ、
 - 5) 除外したい仮想マシンをすべて赤×状態(除外)に設定する。かつ、
 - 6) 上記の設定状態でバックアップジョブを実行する。

以下の方法で発生を未然に防止することができます。

Hyper-V 上の仮想マシンのバックアップジョブを作成する際のバックアップ対象設定において、赤×状態(除外)を使用しないようにします。

具体的には、Hyper-V 上の仮想マシンのバックアップジョブを作成する際のバックアップ対象設定において、一旦選択リストをクリアした状態からバックアップ対象のみを選択してください。

また、バックアップ対象以外の選択リストは未指定とし、赤×状態(除外)にならないようにしてください。

2.3.7 Microsoft Exchange Server

- ・Microsoft Exchange Server がバックアップ対象の場合、クラスタ連続レプリケーション(CCR)環境および、スタンバイ連続レプリケーション(SCR)のパッシブコピー、DAG(Database Availability Groups)環境など、クラスタ化された環境のバックアップはサポート対象外です。

2.3.8 Agent for Windows Systems

- ・Hyper-V のサービスが稼働中に、Hyper-V ホスト OS の仮想マシンが含まれるボリュームをバックアップすると、.vhd ファイルなどの仮想マシン関連のファイルが除外され、バックアップできません。そのため、仮想マシン関連のファイルは、Hyper-V Agent の機能でバックアップしてください。
- ・Backup Exec 2012 Agent for Windows Systems と他のバックアップソフトがインストールされた環境はサポート対象外です。ただし、Symantec System Recovery との混在はサポート対象です。
- ・Backup Exec 2012 Agent for Windows Systems と Symantec System Recovery が混在している場合、両方のバックアップ処理が重ならないよう運用設計をしてください。

- ・Backup Exec 2012 Agent for Windows Systems と Symantec System Recovery を同居させている環境の場合、デフォルトでは Symantec System Recovery の VSS プロバイダが使用されるため、バックアップに失敗する場合があります。

発生条件は以下のとおりです。

- 1) バックアップオプションの Advanced Open File Option に「オープンファイルテクノロジーを自動的に選択する」を設定している。かつ、
- 2) Symantec System Recovery によるバックアップを実行する。

そのため、回避方法としては、バックアップオプションの Advanced Open File Option に「Microsoft ポリウムシャドウコピーサービス」を指定する事で回避できます。

- ・Windows 7 に Backup Exec 2012 Agent for Windows Systems をプッシュインストールする場合、インストールの前に Remote Registry サービスの起動が必要になることがあります。Remote Registry サービスの起動の手順に関しては次のリンクを参照してください。

<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc754820.aspx>

- ・Windows Vista のシステム状態をリストアすると、下記のディレクトリが Windows Vista 上に作成される場合がありますが、一時ディレクトリのため、リストアジョブの完了後、削除してください。

%SystemRoot%\¥F52E2DD5-CE7D-4e54-8766-EE08A709C28E

- ・Backup Exec 2012 Agent for Windows Systems のアンインストール時に、アンインストール処理を続行する前に閉じる必要があるアプリケーションのリストを示すメッセージが表示される場合があります。表示されたリストに含まれるアプリケーションが以下のもののみである場合は、そのメッセージを無視してアンインストール処理を続行できます。

Backup Exec Setup Launcher

Backup Exec Log Server

Backup Exec Agent for Window

2.3.9 重複排除ストレージ

- ・重複排除ストレージの空き領域が枯渇した場合、不要なバックアップセットを削除しても、すぐには重複排除ストレージの空き領域は増えません。

そのため、空き領域をすぐに確保するには、以下のシマンテック社の技術情報に示す操作を実施してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH192557>

ただし、Windows のエクスプローラから参照できる空き容量と、重複排除ストレージの空き容量は一致しません。

2.3.10 VMware 環境の仮想マシンのバックアップ/リストア

- ・ vCenter で ESX/ESXi サーバが管理されている場合は、バックアップ時に ESX/ESXi サーバ経由で VADP バックアップしたとしても、リストアできません。このため vCenter を経由してリストアしてください。
- ・ バックアップ対象とする仮想マシン名で使用可能な文字（半角文字のみ）は以下のとおりです。
 - 英数字
 - ピリオド "."
 - ハイフン "-"
 - アンダースコア "_"
 - プラス "+"
 - 小括弧 "()"
 - 空白本事象は、シマンテック社の以下の技術情報に該当します。
<http://www.symantec.com/docs/TECH208925>
- ・ リストアする仮想マシンの仮想ハードウェアバージョンが、リストア先の ESX/ESXi サーバでサポートしている仮想ハードウェアバージョンより上位バージョンのとき、リストアすることができません。
- ・ 集中管理サーバから複製データを元にリストアする作成済みのジョブを編集すると、リストア元データの指定が管理対象サーバのバックアップデータになります。作成済みのリストアジョブを編集する場合は、リストア元のデータが正しいことを確認してください。

2.3.11 仮想変換

- ・ 特定時点からの仮想変換では、集中管理サーバにある複製データを元に管理対象サーバから仮想変換をすることはできません。このため管理対象サーバのバックアップデータを元に管理対象サーバから仮想変換をしてください。
- ・ 特定時点からの仮想変換では、管理対象サーバにあるバックアップデータを元に集中管理サーバから仮想変換をすることはできません。このため集中管理サーバの複製データを元に集中管理サーバから仮想変換をしてください。

【VMware】

- ・ 仮想変換実行中の仮想変換ジョブをキャンセルした場合、変換先の ESX/ESXi サーバ上に変換のために作成された仮想マシンの定義情報が残ります。不要な場合は、ESX/ESXi サーバ側の GUI 等で削除操作を実施願います。

- ・ SQL Server 2012 がインストールされているシステムバックアップのデータの仮想変換は失敗します。
- ・ CASO 環境に移行する前のスタンドアロン環境で取得したシステムバックアップデータを複製したデータの仮想変換はできません。
- ・ 仮想変換ジョブの作成時の「オプション」の編集操作において、「変換の設定」の「仮想マシンのオプション」の「宛先の仮想マシン」の項目で、「物理 RAM (MB)、CPU 数」を指定して、仮想変換を実行すると、ジョブログ内の「ソースとターゲットシステム設定」のソース側の表示が誤った表示になります。仮想変換ジョブの実行上の問題はありません。

2.3.12 vCenter Serverのシステムバックアップ/リカバリ

vCenter Server のシステムバックアップ/リカバリについては、VMware 社から確立した手順が公開されていません。

このため、vCenter Server のシステムバックアップ/リカバリをお客様自身で実施いただくことに制約はありませんが、vCenter Server のシステムバックアップ/リカバリに関するお問合わせには富士通で対応できません。

2.3.13 その他

- ・ ドライブ文字が割り当てられていないローカルボリュームをバックアップすることはできません。

2.4 ServerView についての留意事項

2.4.1 ServerViewのバージョンについて

- ・ ETERNUS BE50 のダウンロードから下記 URL の掲載内容に従って ServerView RAID Manager V5.8.5、ServerView エージェント V6.30.08 へアップデートをお願いします。

アップデートすることで JRE 7 の対応 ([「2.6 Java Runtime Environment \(JRE\) についての留意事項」](#)をご参照願います。)および、OpenSSL の脆弱性の対策 ([「2.4.2 OpenSSL 'Heartbleed' 脆弱性問題の影響について」](#)をご参照願います。)になります。

「FUJITSU Storage ETERNUS BE50」>「ダウンロード」

<http://storage-system.fujitsu.com/jp/products/dedupe/be/tool/>

ServerView をアップデートする際には、留意事項がありますので、以下のドキュメントをご確認ください。

「FUJITSU Storage ETERNUS BE50」>「製品のご使用にあたって」

<http://storage-system.fujitsu.com/jp/notice/be/>

『ETERNUS BE50 ServerView アップデートにおける留意事項』

2.4.2 OpenSSL 'Heartbleed'脆弱性問題(CVE-2014-0160)の影響について

OpenSSL Project が提供する OpenSSL にリモートからメモリ情報を参照可能な脆弱性 (CVE-2014-0160)の存在が報告されております。

本脆弱性による ETERNUS BE50 への影響について、お知らせいたします。

1. 概要

OpenSSL の脆弱性に関する注意喚起が、JPCERT より公開されております。

<https://www.jpCERT.or.jp/at/2014/at140013.html>

OpenSSL Project が提供する OpenSSL の heartbeat 拡張には情報漏えいの脆弱性があります。結果として、悪意を持った第三者が、細工したパケットを送付することでシステムのメモリ内の情報を閲覧し、秘密鍵などの重要な情報を取得する可能性があります。

以下の版数の OpenSSL が、本脆弱性の影響を受けます。

- OpenSSL 1.0.1 から 1.0.1f
- OpenSSL 1.0.2-beta から 1.0.2-beta1

2. 影響を受ける可能性のある ETERNUS BE50 対象プログラム

ServerView RAID Manager V5.5.2 および V5.6.4

3. お願いとお知らせ

本脆弱性による影響を受けないように修正された対策版 (ServerView RAID Manager V5.8.5)を以下の URL の掲載内容に従って入手し、アップデートの実施をお願いします。

「FUJITSU Storage ETERNUS BE50」>「ダウンロード」

<http://storage-system.fujitsu.com/jp/products/dedupe/be/tool/>

プログラム「ServerView RAID Manager」

対策版にアップデートされるまでの間は、回避策を実施していただけますようお願いいたします。

<回避策>

影響を受けるバージョンの ServerView RAID Manager に対する外部接続からの攻撃に対しては、ネットワークポート 3173 番をブロックすることで受けつけなくなります。

この場合、BE50 本体のブラウザからのみ ServerView RAID Manager を利用することが出来ます。

また、以下を行うことでも外部から ServerView RAID Manager へのアクセスが出来なくなるため、外部接続からの脆弱性を突いた攻撃を受けつけなくなります。

- 1) amDPatch.ini ファイルを編集します。

ファイルの配置場所

C:¥Program Files (x86)¥Fujitsu¥ServerView Suite¥RAID Manager¥bin¥amDPatch.ini

- 2) ファイル中の " LocalConnections =" を "1" に編集します (デフォルト:0)

LocalConnections = 1 ; From which servers are connections allowed to our port

- 3) ServerView RAID Manager サービスを再起動します。

「スタートメニュー」の「管理ツール」から「サービス」を起動してください。

表示されたサービスの一覧から、「ServerView RAID Manager」サービスを選択し、「サービスの再起動」を実施してください。

- 4) ServerView RAID Manager にアクセスする場合は、ETERNUS BE50 のスタートメニューから ServerView RAID Manager を起動せずに、ETERNUS BE50 自身のブラウザから

<https://127.0.0.1:3173/> または <https://localhost:3173/> に接続します。

上記回避策を実施後、OpenSSL 脆弱性の対策版にアップデートインストールを行った場合、外部 (ローカルホスト以外) からの ServerView RAID Manager へのアクセス不可の設定は引き継がれます。外部からのアクセスを許可する場合は、アップデートインストール後に以下の手順を実施願います。

- 1) amDPatch.ini ファイルを編集します。

ファイルの配置場所

C:¥Program Files¥Fujitsu¥ServerView Suite¥RAID Manager¥bin¥amDPatch.ini

- 2) ファイル中の " LocalConnections =" を "0" に編集します (修正前:1)

LocalConnections = 0 ; From which servers are connections allowed to our port

- 3) ServerView RAID Manager サービスを再起動します。

「スタートメニュー」の「管理ツール」から「サービス」を起動してください。

表示されたサービスの一覧から、「ServerView RAID Manager」サービスを選択し、「サービスの再起動」を実施してください。

2.5 LAN/その他のドライバについての留意事項

- ・ETERNUS BE50にインストールされているLAN/その他のドライバは、アップデートは実施せずに、出荷時の状態をご利用ください。ただし、修正モジュールの適用が必要となった場合は、以下の公開サイトで提供します。

「FUJITSU Storage ETERNUS BE50」>「ダウンロード」

<http://storage-system.fujitsu.com/jp/products/dedupe/be/tool>

2.6 Java Runtime Environment (JRE) についての留意事項

- ・ETERNUS BE50 には JRE 6 がインストールされています。Java SE 6 の公式アップデートが終了となったため Java Update を使用して Java SE 7 へのアップデートを実施願います。
- ・Java 7 Update 10 (7u10)以降のバージョンには、使用している Java のバージョンが最新ではないか、または既知のセキュリティ脆弱性がある場合に、「Java Update が必要」というメッセージ(「Java のバージョンが最新ではありません。」または「お使いの Java バージョンは安全ではありません。’)といったメッセージが表示されます。
インターネットに接続された環境でお使いの場合は「更新(推奨)」を選択してアップデートを実施してください。インターネットに接続されていない環境でお使いの場合は、「後で」を選択してください。
- ・Java 7 U25(7u25)以降のバージョンをお使いの場合、Java Applet (ServerView RAID Manager) の画面が正しく表示されないことがあります。以下の対処を行うことで Java Appletを実行することができます。

インターネットに接続された環境でお使いの場合：

以下のいずれかの対処を行ってください。

対処 1)

最新の Java 7 にアップデートしてください。

対処 2)

1.Windows のコントロール・パネルを開きます。

表示されたアイコンの中から Java をダブルクリックします。

2.セキュリティタブのセキュリティ・レベルを「中」にし、「適用」をクリックします。

インターネットに接続されていない環境でお使いの場合：

1.Windows のコントロール・パネルを開きます。

表示されたアイコンの中から Java をダブルクリックします。

2.詳細タブの”証明書失効チェックを実行”で「チェックしない(非推奨)」を選択し、「OK」をクリックします。

2.6.1 Java 7 Update 51の適用について

オラクル・コーポレーション社が米国時間の 2014 年 1 月 14 日より提供された Java 7 Update 51 により、Java Applet および Java Web Start の Java プログラムが正常に動作しなくなる事象が生じる場合があります。

つきましては、ETERNUS BE50 の Java プログラムを実行するウェブブラウザ環境に対し、後述する回避策を実施いただけますようお願いいたします。

・概要

オラクル・コーポレーション社の公開情報によると、Java 7 Update 51 より、セキュリティ要件が変更され、"公的機関の署名付 JAR" および "Permissions"アトリビュートが、Java Applet および Java Web Start の Java プログラムの必須要件に変更されます。その結果、当該要件を満たしていない Java プログラムは、ウェブブラウザ上で実行できなくなります。

詳細は、オラクル・コーポレーション社の公開情報を参照ください。

- 「Java Platform Group Product Management」ブログ (英文)
https://blogs.oracle.com/java-platform-group/entry/new_security_requirements_for_rias
- ブラウザの Java コンテンツ — セキュリティの変更 (和文)
http://www.java.com/ja/download/faq/signed_code.xml

・影響を受ける可能性のある ETERNUS BE50 対象プログラム

ウェブブラウザ上で動作する Java Applet および Java Web Start の Java プログラムについて、プログラムが起動できない等の不具合が発生する可能性があります。

- ServerView RAID Manager v5.6.4

・お願いとお知らせ

Java 7 Update 51 により影響を受ける可能性のある Java プログラムを実行するウェブブラウザ環境 (ETERNUS BE50 本体やクライアント PC) への当版数の適用を実施する際は、ETERNUS BE50 にインストールされている ServerView RAID Manager を Java 7 Update51 対応版 (ServerView RAID Manager v5.8.5) にあらかじめアップデートいただくか、下記の回避策を実施いただきますようお願いいたします。Java 7 Update51 対応版 (ServerView RAID Manager V5.8.5) は、以下の URL の掲載内容に従って入手してください。

「FUJITSU Storage ETERNUS BE50」>「ダウンロード」

<http://storage-system.fujitsu.com/jp/products/dedupe/be/tool/>

プログラム「ServerView RAID Manager」

<回避策>

Java 7 Update 51 以降にて実装された、「例外サイト・リスト」に、ServerView RAID Manager の URL を指定してください。「例外サイト・リスト」は、Java コントロール・パネルの「セキュリティ」タブから設定することができます。

- ServerView RAID Manager の URL : <https://<ホスト名、もしくは IP アドレス>:3173/>

詳細は、オラクル・コーポレーション社の公開情報を参照ください。

- 「どうすれば例外サイト・リストを構成できますか。」(和文)
https://www.java.com/ja/download/faq/exception_sitelist.xml
- 「Java Platform Group Product Management」ブログ(英文)
https://blogs.oracle.com/java-platform-group/entry/upcoming_exception_site_list_in

2.7 UPS 電源管理ソフトウェアについての留意事項

- ・UPS 電源管理ソフトウェアと UPS を使用して、ETERNUS BE50 の電源管理が可能です。
UPS 電源管理ソフトウェアのインストール方法については、UPS 電源管理ソフトウェアに添付のマニュアルに準じて実施してください。
- ・動作確認済みの UPS 電源管理ソフトウェアと UPS は以下のとおりです。

UPS 電源管理ソフトウェア

PowerChute Business Edition v9.0.1

PowerChute Business Edition v9.1.1

(以降、PowerChute または、PCBE と表記します。)

UPS

Smart-UPS SMT 750J(PY-UPAT75)

Smart-UPS SMT 1500J(PY-UPAT15)

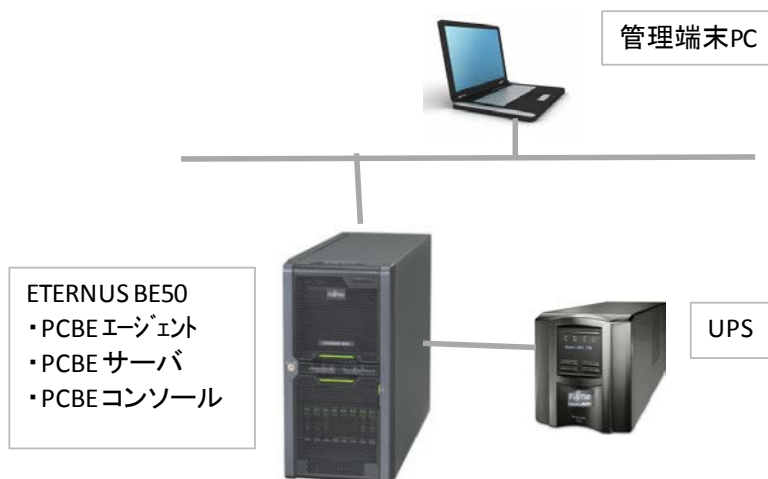
Smart-UPS SMT 1200RMJ(PY-UPAR12)

Smart-UPS SMT 1500RMJ(PY-UPAR15)

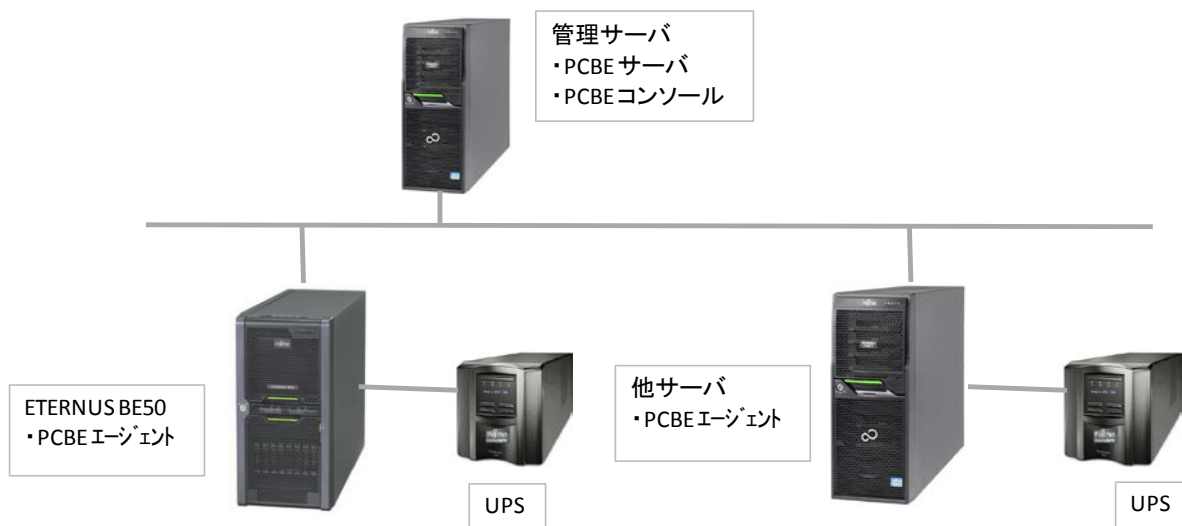
・ETERNUS BE50 がサポートする UPS 電源管理ソフトウェアと UPS を使用した構成は以下のとおりです。

(1) PCBE エージェント/サーバ/コンソールをインストールした 1 台の ETERNUS BE50 の電源を管理します。

ETERNUS BE50 に PCBE サーバをインストールしますが、他のサーバの電源管理は出来ません。



(2) PCBE サーバ/コンソールをインストールした管理サーバから、ETERNUS BE50 を含む複数のサーバの電源を管理します。ETERNUS BE50 に PCBE エージェントのみインストールします。



・ETERNUS BE50 で PowerChute を使用する際に、以下の留意事項がありますので、ご注意願います。

(1) DHCP (固定 IP アドレスを割り振らない) 環境など、電源管理の対象となる ETERNUS BE50 の運用中に IP アドレスが変更される可能性のある環境では使用できません。ETERNUS BE50 は、必ず固定 IP アドレスで運用するようにしてください。

- (2) PowerChute Business Edition は AC200V 電源に対応していません。ETERNUS BE50 は、AC100V 電源で使用してください。
- (3) ETERNUS BE50 の OS は「Windows Storage Server 2008 R2」ですが、PowerChute の管理コンソールからはエージェント (ETERNUS BE50) の OS が「Windows Server 2008 R2」と表示されます。これは PowerChute の仕様のため問題ありません。
- (4) PowerChute をインストールする際は、BE50 設定ツールを使用せずに OS を操作してインストールしてください。
- (5) PowerChute によるシャットダウン時に、Backup Exec のバックアップジョブが異常終了する場合があります。その場合は ETERNUS BE50 を起動後に、Backup Exec のサービス起動、および、手動でジョブの実行が必要になります。

2.8 Windows Server 2012 における留意事項

Backup Exec 2012 の Service Pack 2 (以下、SP2)以降の適用により 2013 年 9 月 24 日より、リモートコンピュータ(バックアップ対象)の Windows Server 2012 のサポートを開始しました。

SP2 の適用については、本書の「[2.10.1 Backup Exec 2012 の Service Pack 2 の適用について](#)」をご確認ください。

Windows Server 2012 のサポートについては、以下の留意事項がありますので、ご注意願います。

- ETERNUS BE50 に Backup Exec 2012 の SP2 を適用後に、すべてのリモートコンピュータ(バックアップ対象)に Backup Exec 2012 の SP2 を適用する必要がありますので、SP2 をインストールして最新版にしてください。

Hyper-V ホスト OS が Windows Server 2008 の場合、Hyper-V ホスト OS で ある Windows Server 2008 に Backup Exec 2012 Agent for Windows Systems の SP2 を インストールすると、仮想マシンのバックアップに失敗する現象がありましたが、最新の Service Pack (以下 SP)を適用することでこの現象は回避できます。最新の SP については本書の「[2.10 Backup Exec 2012 の Service Pack について](#)」をご確認ください。

- Windows Server 2012 では、Simplified Disaster Recovery (SDR)によるディザスタリカバリは未サポートです。ディザスタリカバリする場合は、手動ディザスタリカバリを実施ください。

なお、リモートコンピュータの手動ディザスタリカバリ実施後の初回起動時には、スタート画面に何も表示されませんので、もう一度リモートコンピュータを起動する必要があります。

- Windows Server 2012 がリモートコンピュータの場合、VxGather を実行すると VxGather の処理が停止したように見えます。これは VxGather の処理が遅いだけであるため、約 10 分お待ちいただくと VxGather は完了します。

- ・ReFS ボリュームや Windows の重複排除を有効にしたボリュームに、Backup Exec 2012 Agent for Windows Systems をインストールすることはできません。
- ・Backup Exec 2012 Agent for Windows Systemsを使用し、Windows の重複排除を有効にしたボリュームにリストアを実施した場合、重複排除されていないデータをリストアします。そのため、リストアジョブを実行する前に、重複排除されていないデータをリストアするには、十分なディスク容量があること確認してください。ファイルは、Windows の通常のデータ重複排除処理がディスクで実行されるときに、必要に応じて重複排除されます。

2.9 Windows Server 2012 Hyper-V*¹ についての留意事項

- ・Windows Server 2012 Hyper-V*¹ 上で、Windows Server 2008(R2 含む)の仮想マシンをリストアする場合、リストアジョブでは「リストア後に仮想マシンの電源をオンにしない」設定にしても、リストア後には、仮想マシンの電源は「オン」になります。

(*1: Backup Exec 2012 の SP2 以降の適用が必要です。SP2 の適用については、本書の[「2.10.1 Backup Exec 2012 の Service Pack 2 の適用について」](#)をご確認ください。)

- ・Windows Server 2012 Hyper-V の以下に該当するバックアップとリストアはサポート対象外です。
 - Cluster Shared Volume (CSV)
 - 仮想マシンに 2TB の容量を超える VHDX ファイル形式が存在する場合の GRT 機能
 - 論理セクタサイズが 4,096 バイトの VHDX ファイル形式が存在する場合の GRT 機能
 - 重複排除が有効になっているボリュームが存在する仮想マシン
 - Resilient File System (ReFS) が存在する仮想マシン
 - ファイバーチャネルのホストバスアダプタ (HBA) が存在する仮想マシン
 - リモート記憶領域 (ローカル・ディスクを効率的に利用するために、Windows が備えているストレージ管理システム) が存在する仮想マシン
 - 物理ハードディスクが接続された仮想マシン

- ・Windows Server 2012 Hyper-V 上の仮想マシンのバックアップを、Windows Server 2008 Hyper-V や Windows Server 2008 R2 Hyper-V 環境にリストアすることはサポート対象外です。

- ・Windows Server 2003 のサーバを Windows Server 2012 Hyper-V*¹ ホストに仮想変換後、リモートデスクトップ経由で Hyper-V ホストに接続し、仮想変換した仮想マシンのコンソール画面を操作しようとする、
「リモートデスクトップセッションでマウスがキャプチャされていません」と表示され、キーボードやマウス操作ができません。この場合、リモートデスクトップ経由で Hyper-V ホストに接続するのではなく、コンソールから Hyper-V ホスト OS を操作してください。

(*1: Backup Exec 2012 の SP2 以降の適用が必要です。SP2 の適用については、本書の[「2.10.1 Backup Exec 2012 の Service Pack 2 の適用について」](#)をご確認ください。)

- ・Windows Server 2003 がインストールされた物理サーバを、Windows Server 2012 Hyper-V ホスト^{*1} の仮想マシンへ仮想変換後、変換された仮想 OS を起動すると、「システムスタートアップの最中、少なくとも 1 つのサービスまたはドライバにエラーが発生しました。」といったメッセージが出力される場合があります。
(*1:Backup Exec 2012 の SP2 以降の適用が必要です。SP2 の適用については、本書の[2.10.1 Backup Exec 2012 の Service Pack 2 の適用について](#)をご確認ください。)

2.10 Backup Exec 2012 の Service Pack について

Backup Exec 2012 には、修正を集約した以下の Service Pack (以下 SP)が公開されています。

- Backup Exec 2012 SP2 (2013 年 9 月公開)
- Backup Exec 2012 SP3 (2013 年 12 月公開)
- Backup Exec 2012 SP4 (2014 年 5 月公開)

- ・ETERNUS BE50 は、最新の SP を適用して運用することをお勧めします。
なお、最新の SP は、それまでに公開した SP の修正を包含しています。

- ・ETERNUS BE50 に Backup Exec 2012 の SP を適用後に、すべてのリモートコンピュータ(バックアップ対象)に Backup Exec 2012 の SP を適用する必要があります。
ETERNUS BE50 に適用した SP をリモートコンピュータにインストールしてください。

- ・SP2 の適用については、本書の[2.10.1 Backup Exec 2012 の Service Pack 2 の適用について](#)をご確認ください。

- ・SP3 の適用については、本書の[2.10.2 Backup Exec 2012 の Service Pack 3 の適用について](#)をご確認ください。

- ・SP4 の適用については、本書の[2.10.3 Backup Exec 2012 の Service Pack 4 の適用について](#)をご確認ください。

2.10.1 Backup Exec 2012のService Pack 2の適用について

- ・Backup Exec 2012 の Service Pack 2 (以下、SP2)を 2013 年 9 月 24 日に公開しました。
SP2 の適用により、リモートコンピュータ(バックアップ対象)の Windows Server 2012/VMware ESXi5.1 のサポートが開始となりました。ETERNUS BE50 の動環境については、本書の[3. 動作環境](#)をご確認ください。
- ・SP2 は Backup Exec 2012 の最新の Service Pack (以下 SP)に含まれるため、Backup Exec 2012 の最新の SP を適用した場合、SP2 を適用する必要はありません。最新の SP については本書の[2.10 Backup Exec 2012 の Service Pack について](#)をご確認ください。

・Hyper-V ホスト OS が Windows Server 2008 の場合、Hyper-V ホスト OS である Windows Server 2008 に Backup Exec 2012 Agent for Windows Systems の SP2 をインストールすると、仮想マシンのバックアップに失敗します。

このため、ETERNUS BE50 の Backup Exec 2012 に SP2 を適用しても、Hyper-V ホスト OS である Windows Server 2008 上の Backup Exec 2012 Agent for Windows Systems には、SP2 を適用しないでください。本事象は、Hyper-V ホスト OS が Windows Server 2008 R2 および、Windows Server 2012 の場合には発生しません。

また、本事象はシマンテック社の以下の技術情報に該当します。

<http://www.symantec.com/docs/TECH209562>

2.10.2 Backup Exec 2012のService Pack 3の適用について

Backup Exec 2012 の Service Pack 3 (以下、SP3)を 2013 年 12 月 26 日に公開しました。

SP3 は Backup Exec 2012 の最新の Service Pack (以下 SP)に含まれるため、Backup Exec 2012 の最新の SP を適用した場合、SP3 を適用する必要はありません。最新の SP については本書の「[2.10 Backup Exec 2012 の Service Pack について](#)」をご確認ください。

2.10.3 Backup Exec 2012のService Pack 4の適用について

Backup Exec 2012 の Service Pack 4 (以下、SP4)を 2014 年 5 月 2 日に公開しました。

SP4 は以下のサイトにて入手可能ですので、順次適用をお願いします。

「FUJITSU Storage ETERNUS BE50」>「ダウンロード」

<http://storage-system.fujitsu.com/jp/products/dedupe/be/tool/>

SP4 の適用については、以下の留意事項がありますので、ご注意願います。

・2014 年 6 月 26 日よりバックアップ対象のリモートコンピュータとしての VMware ESXi 5.5 のサポートを開始しました。SP4 以降の適用が必要です。

・ETERNUS BE50 の初期設定時にホスト名を「BE50」から他のホスト名に変更している場合、SP4 の適用に失敗する場合があります。失敗する場合、以下の手順を実施することで適用することが可能となります。

CASO 環境ではない場合

- 1) 以下のドキュメントに記載されている「ホスト名変更後の後処理」を実施します。

「ETERNUS 重複排除技術搭載ストレージ関連マニュアル」

<http://storage-system.fujitsu.com/jp/catalog/manual/dedupe/index.html>

『ETERNUS BE50 ユーザーズガイド 導入編』最新版

マニュアルコード:P3AM-6982-XXZ0 (XX は版数を表しています。)

「5.4 ホスト名変更後の後処理」

- 2) 「ホスト名変更後の後処理」を実施後、SP4 を適用してください。SP4 適用後は ETERNUS BE50 を再起動します。

CASO 環境の場合

- 1) 以下のドキュメントに記載されている「ホスト名変更後の後処理」を集中管理サーバと管理対象サーバのそれぞれで実施します。

「ETERNUS 重複排除技術搭載ストレージ関連マニュアル」

<http://storage-system.fujitsu.com/jp/catalog/manual/dedupe/index.html>

『ETERNUS BE50 ユーザーズガイド 導入編 最新版』

マニュアルコード:P3AM-6982-XXZ0 (XX は版数を表しています。)

「5.4 ホスト名変更後の後処理」

- 2) 集中管理サーバにおいて管理対象サーバとの通信を無効にします。
 - 2-1) 集中管理サーバの Backup Exec の管理コンソールを起動し、Administrator でログオンします。
 - 2-2) Backup Exec の管理コンソールの「ストレージ」タブを選択します。
 - 2-3) 表示された管理対象サーバを右クリックし、「通信の有効化」を選択します。選択することで、無効化になります。
- 3) 集中管理サーバに SP4 を適用します。
- 4) SP4 適用完了後、集中管理サーバを再起動し、SP4 の適用を完了させます。
- 5) 集中管理サーバの再起動後、集中管理サーバにおいて管理対象サーバとの通信を有効にします。
 - 5-1) 集中管理サーバの Backup Exec の管理コンソールを起動し、Administrator でログオンします。
 - 5-2) Backup Exec の管理コンソールの「ストレージ」タブを選択します。
 - 5-3) 表示された管理対象サーバを右クリックし、「通信の有効化」を選択します。選択することで、有効化になります。
- 6) 次に管理対象サーバに SP4 を適用します。SP4 の適用後に、管理対象サーバを再起動し、SP4 の適用を完了させます。

2.11 OpenSSL における Change Cipher Spec メッセージ処理の脆弱性 (CVE-2014-0224) の影響について

OpenSSL Project が提供する OpenSSL には、初期 SSL/TLS ハンドシェイクにおける Change Cipher Spec メッセージの処理に脆弱性 (CVE-2014-0224) が存在します。

1. 脆弱性の説明

ETERNUS BE50 にプレインストール済みの Symantec Backup Exec 2012 が以下の条件の場合、OpenSSL における Change Cipher Spec メッセージの処理に脆弱性の問題が存在します。

- Symantec Backup Exec 2012 に SP3 以降を適用済みである。かつ
 - VMware ESXi 5.5 または VMware vCenter 5.5 を経由して、バックアップやリストアを実行した場合、または、VMware ESXi 5.5 環境へ物理サーバを仮想変換した場合
- 詳細については、「4. 関連情報」に記載の、シマンテック社の公開情報を参照願います。

2. 脆弱性のもたらす脅威

ETERNUS BE50 と VMware ESXi 5.5 または VMware vCenter 5.5 の通信データが、中間者攻撃 (man-in-the-middle attack) によって解読されたり、改ざんされたりする可能性があります。本脆弱性の深刻度に関しては、「4. 関連情報」に記載の JVN の公開情報を参照願います。

3. 回避方法

- ・以下の VMware の修正プログラムを適用します。
 - ESXi550-201406401-SG

上記 VMware の修正プログラムの入手については、「4. 関連情報」に記載の、VMware の公開情報を参照願います。

4. 関連情報

- ・シマンテック社
http://www.symantec.com/business/support/index?page=content&id=TECH218344&locale=en_US
- ・JVN#61247051
「OpenSSL における Change Cipher Spec メッセージの処理に脆弱性」
<http://jvn.jp/jp/JVN61247051/index.html>
- ・CVE-2014-0224
<http://web.nvd.nist.gov/view/vuln/detail?vulnId=CVE-2014-0224>

- ・VMware

http://kb.vmware.com/selfservice/microsites/search.do?cmd=displayKC&docType=kc&externalId=2079783&sliceId=1&docTypeID=DT_KB_1_1&dialogID=282054392&statId=1%20%20282062537

<http://www.vmware.com/security/advisories/VMSA-2014-0006.html>

2.12 PRIMEQUEST 2000 シリーズにおける留意事項

リモートコンピュータ(バックアップ対象)としての PRIMEQUEST 2000 シリーズのサポートについては、以下の留意事項がありますので、ご注意願います。

- ・以下の OS のみサポート対象とします。

- Windows Server 2008 R2
- Windows Server 2012

- ・ローカルディスク上にある一般ファイルとフォルダのバックアップとリストアのみをサポートします。

以下はサポート対象外です。

- システムバックアップ
- データベースのオンラインバックアップ
- アプリケーションデータのオンラインバックアップ
- 仮想ゲスト OS 単位のバックアップ

3. 動作環境

・ETERNUS BE50 の動作環境は以下の URL にて公開しています。

「FUJITSU Storage ETERNUS BE50」>「サポート OS / ソフトウェア」

<http://storage-system.fujitsu.com/jp/products/dedupe/be/support/>

・2013 年 9 月 24 日よりリモートコンピュータ(バックアップ対象)として Windows Server 2012/VMware ESXi5.1 のサポートを開始しました。Backup Exec 2012 SP2 以降を適用する必要があります。SP2 の適用については、本書の「[2.10.1 Backup Exec 2012 の Service Pack 2 の適用について](#)」をご確認ください。

Windows Server 2012 のサポートについては、本書の「[2.8 Windows Server 2012 における留意事項](#)」をご確認ください。

・Windows Server 2012 では、Simplified Disaster Recovery (SDR) によるディザスタリカバリは未サポートです。ディザスタリカバリする場合は、手動ディザスタリカバリを実施ください。

なお、リモートコンピュータの手動ディザスタリカバリ実施後の初回起動時には、スタート画面に何も表示されませんので、もう一度リモートコンピュータを起動する必要があります。

・2014 年 4 月 3 日よりリモートコンピュータ(バックアップ対象)として Red Hat® Enterprise Linux® 5.x, 6.x のサポートを開始しました。Backup Exec 2012 SP3 以降を適用する必要があります。SP3 については本書の「[2.10.2 Backup Exec 2012 の Service Pack 3 の適用について](#)」をご確認ください。Linux のサポートについては留意事項がありますので、ご使用前にはマニュアルの最新版を以下の URL から入手し、必ずご確認ください。

ETERNUS 重複排除技術搭載ストレージ関連マニュアル

<http://storage-system.fujitsu.com/jp/catalog/manual/dedupe/>

マニュアルコード:P3AM-6982-XXZ0 (XX は版数を表しています。)

『ETERNUS BE50 ユーザーズガイド 導入編』の「付録 D 留意事項」

・2014 年 4 月 3 日より BE50 設定ツールの動作環境として Windows® 8.1, Windows® 8, Windows® Internet Explorer® 11 および Windows® Internet Explorer® 10 のサポートを開始しました。BE50 設定ツールアップデートパック V1.0.1 以降を適用する必要があります。BE50 設定ツールアップデートパックは以下の URL から入手してください。

「FUJITSU Storage ETERNUS BE50」>「ダウンロード」

<http://storage-system.fujitsu.com/jp/products/dedupe/be/tool/>

プログラム「BE50 設定ツール」

・2014年6月26日よりリモートコンピュータ(バックアップ対象)としてVMware ESXi5.5等のサポートを開始しました。Backup Exec 2012 Service Pack 4(以下 SP4)以降を適用する必要があります。SP4については本書の「[2.10.3 Backup Exec 2012 の Service Pack 4 の適用について](#)」をご確認ください。

FUJITSU Storage ETERNUS BE50 バックアップアプライアンス

注意事項

第16版

P3AM-7082-16Z0

発行日 2015 年11月

発行責任 富士通株式会社

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書の内容は、細心の注意を払って制作致しましたが、本書中の誤字、情報の抜け、本書情報の使用に起因する運用結果に関しましては、責任を負いかねますので予めご了承願います。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。

FUJITSU